

令和4年度学校自己評価システムシート (県立岩槻商業高等学校)

目指す学校像	柔軟で創造的なビジネス人材を地域とともに育む学校
--------	--------------------------

重点目標	1 主体的、最適及び効率的、教科横断的な学びによる確かな知識・技能及び課題発見・解決能力を育成する。 2 自主性、自立・自律の醸成を図り、柔軟に対応できる心身とともに調和の取れた人材を育成する。 3 進路実現と社会貢献及び活躍の両立ができる一貫したキャリア教育を計画的・組織的に実現する。 4 発信力を重視し、保護者や地域と連携・協働し、地域に根ざした信頼される学校づくりをする。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 学び直しや資格取得の学習及び指導は定着しており、生徒の学習態度も安定している。 【課題】 自主的な学習意欲や課題解決能力などに必要な思考力・表現力等が全般的に不足している。観点別評価の導入を契機に指導と評価の一体化を推進させ、また一層のICT教育と協調学習等を融合した授業改善にも着手する必要がある。	課題発見・解決型の学習や協調学習やICT活用を推進して分かる授業を行うとともに資格取得指導を推奨する。	①課題発見・解決型の学習指導の研究(研鑽)・推進 ②協調学習を中心とした授業研究による指導力の向上 ③ICTを活用した分かる授業の実践 ④資格取得(上位級含む)指導の実施と取得者の表彰	①②研究授業の実施回数 ③ICT活用頻度・方法 ①②③観点別評価の実施状況、アンケート結果 ④埼玉県高校生専門資格等取得表彰の表彰率7割以上 ④上位資格合格者の増加 ④バッジ取得者(検定1級)の表彰			
		観点別評価による評価評定を行い、適正な評価となっているか検証を行う。	①観点別評価による評価方法の確立 ②振り返りを通じてより適正な評価法への改善	①評価方法の確立 ②改善点の検討および修正			
2	【現状】 基本的な生活習慣は定着しており、交通事故やコロナ感染の予防など安心安全の学校づくりに組織的に対応している。 【課題】 教科指導を中心に、豊かな人間性を涵養していくための具体的な目標や手順・項目などを明確にしていく必要がある。	生徒の人間力(知的能力、社会・対人関係力、自己制御)を高める指導を行う。	①社会人としての観点による生活・教科・進路指導の実践 ②部活動実績や生徒の様々な活動を奨励する指導の実施	①学校生活アンケートの指標上昇 ②部活動実績や生徒の活躍の状況			
		安全・安心な学校生活を実現する。	①交通安全巡回指導、いじめ防止の組織的指導の実施 ②感染防止対策の徹底、防災・安全対策指導の充実	①交通事故件数の減少、いじめ問題等への取組状況 ②感染防止対策の状況、防災・安全対策指導の状況			
3	【現状】 3年間を通じてのキャリア教育は計画的に実施されている。また、進路実現はほぼ希望通りに決定している。 【課題】 進路実現は達成されているが、社会人としての活躍・貢献は十分ではない。知識・技能以外の社会人として必要な資質・能力を身につける必要がある。	生徒の進路希望の実現と進路意識を向上させる。	①【1年】中学校からのキャリア・パスポートを継続かつ発展させる指導の実施 ②【2年】総合的な探究の時間を中心としたキャリア教育の実施 ③【3年】具体的な進路実現に向けた、個に応じた進路指導の実施 ④「未来の職業人材育成事業」等による外部教育力活用	①キャリア・パスポートを活用した指導の実践回数等(目標、月1回以上) ②総合的な探究の時間の指導内容の充実度上昇 ③進路実現率、進路指導に対する「満足度」状況 ④外部指導力の活用状況、新たな取組の実践状況			
4	【現状】 地域連携との交流は、一部の取組にとどまった。保護者との連携は、新規にWeb機能を活用して情報提供ができた。ただし、生徒募集の問題を含め、情報発信方法等の検討が必要である。 【課題】 本校教育活動をより深く認識・理解されるための情報発信と教育活動の充実が求められる。	生徒の活躍や成長した姿を積極的に広報する。	①学校説明会等の工夫・改善 ②学校Webページ上による情報提供の充実 ③中高連携の推進	①感染防止対策を徹底した上での参加者数増加 ②アクセス数増加 ①②本校への志願倍率上昇			
		感染予防措置を実施しながら地域貢献活動を推進する。	①地域貢献の企画提案・実践 ②地域が求める貢献に関するニーズの収集	①地域貢献の実践状況 ②地域が必要とする貢献			

学校関係者評価
実施日 令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等